



アクリン ACLin

～無機系凝集剤～

販売者

株式会社アスネック

製品概要

汚濁水に《アクリン(ACLin)》を投入し混ぜるだけで
浄化する、物質状態は粉体の無機系凝集剤です。
1剤1工程で、汚濁水を中性化し、凝集し水と分離させます。

《中和しながら、水をきれいにする》
という「水環境保全製品」です

凝集分離の例①

水性ペイントの場合



① 濁水状態



② アクリン投入



③ 攪拌 (1分)



④ 放置 (30秒)



⑤ 凝集物取出

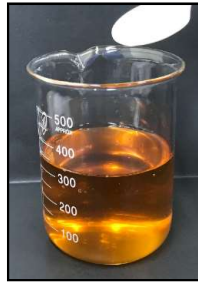


凝集分離の例②

玉ねぎ外皮の場合



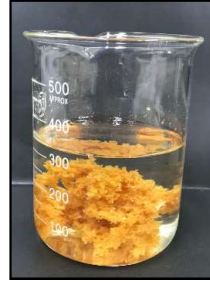
① 濁水状態



② アクリン投入



③ 攪拌 (1分)



④ 放置 (30秒)

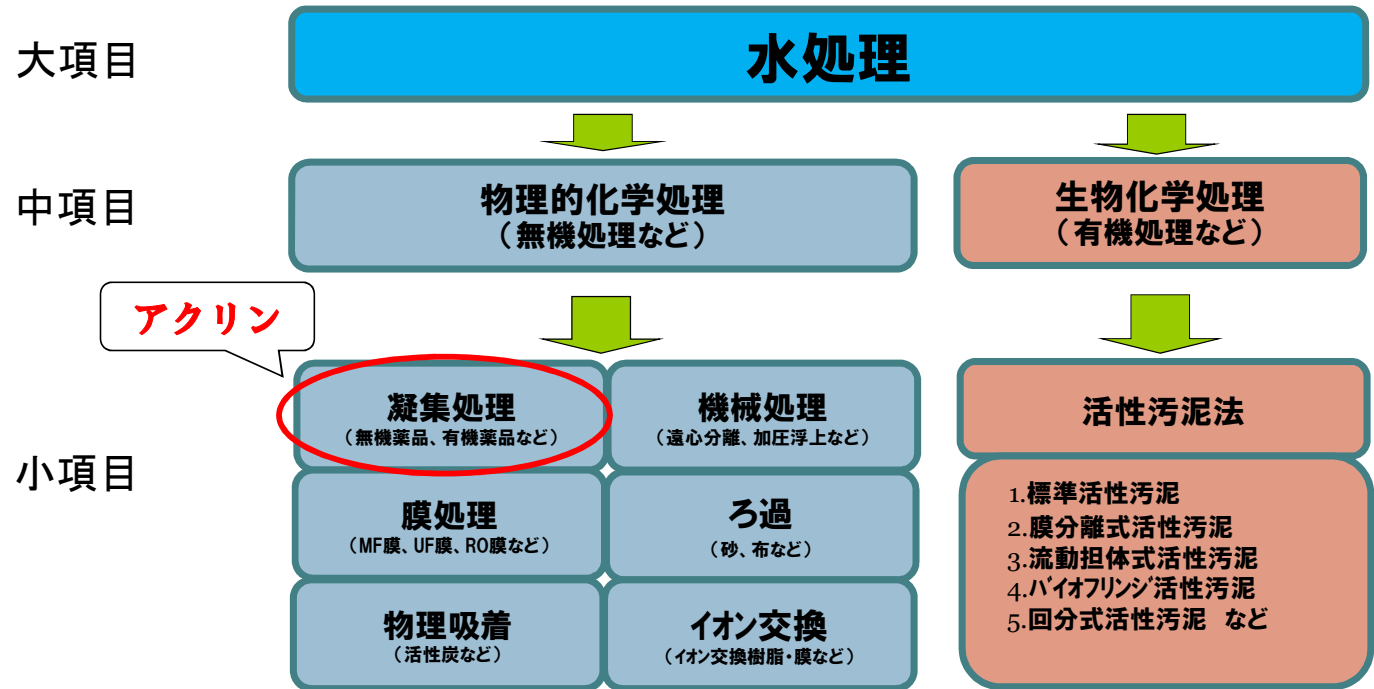


⑤ 凝集物取出

性能

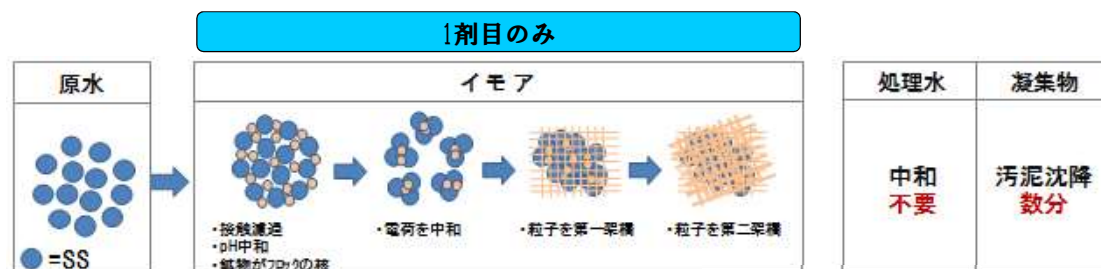
- 1剤1工程で簡単に処理可能
- 油エマルジョン廃水の処理が可能
- 自動中和(pH5~9⇒pH中和)
- 危険性なく処理可能
- カスタマイズ可能

水の種別



従来薬剤との比較(処理方法)

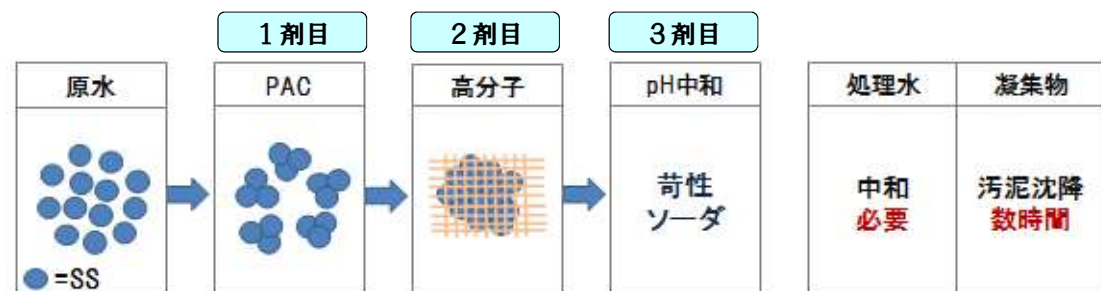
アクリンの処理方法



1剤処理で5工程以上の効果を発揮!

簡単・早い

従来(PAC+高分子処理)の処理方法



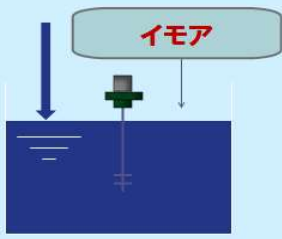
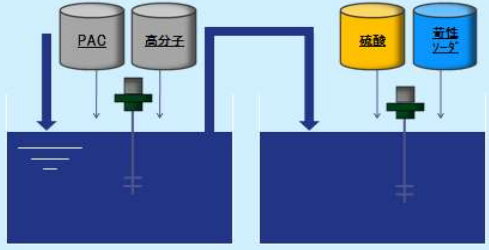
3剤処理で3工程の処理が必要

調整が難しい

- ・粉体: 小規模排水、廃水の補助処理に向いています。
- ・投入して混ぜるだけで廃水を凝集分離させます。

- ・液体: 大規模排水に向いています。
- ・PAC(無機凝集剤)と高分子(有機凝集剤)の組合せになります。
- ・添加装置や高度な水処理の知識・調整は必要です。

従来薬剤との比較（使用方法）

アクリン (ACLin)	従来方法 (PAC+高分子処理)
 <p data-bbox="443 890 526 917">凝集槽</p> <ol data-bbox="241 944 622 1069" style="list-style-type: none">1. 1つの槽で処理可能2. 1剤で凝集からpH調整まで可能3. 粉体なので薬剤の簡易投入が可能4. 強撹拌が必要	 <p data-bbox="878 890 960 917">凝集槽</p> <p data-bbox="1115 890 1220 917">pH調整槽</p> <ol data-bbox="806 944 1276 1061" style="list-style-type: none">1. 2つの槽（凝集槽、pH調整槽）が必要2. 4剤必要で更に細かい調整が必要3. 液体なので、貯蔵タンク・添加用ポンプが必要4. 弱撹拌で処理が可能

工程が少ない

工程が多い

従来薬剤との比較（フロック比較）

水処理薬品で発生する凝集物は、フロック・スラッジ・凝集物など様々な表現があり、アクリンとPACで同じ様な凝集状況に見えますが、以下の違いがあります。

アクリン	比較項目	PAC+高分子処理
強固で大きなフロックを形成	1. フロックの強度	形成したフロックが小さく、潰れやすい。
粘性が弱く処理が容易	2. 粘性	粘性が強く処理が難しい
環境に対する影響は最小限	3. 処分	却時にダイオキシンの問題、埋め立ても粘性の関係で懸念されるなどの問題点
脱水性も良く、粘性も最小限	4. 脱水性	脱水性が悪く、粘性も高い

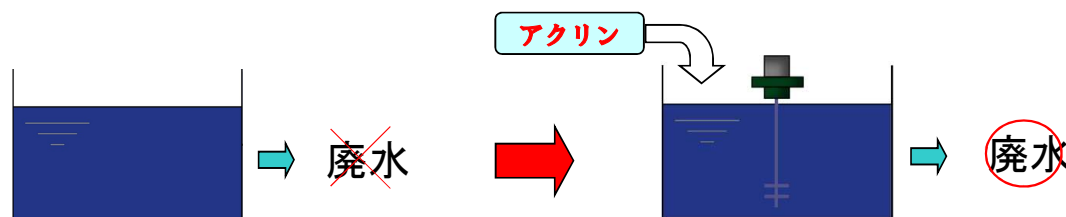
アクリン処理後のフロックの優位性は明らかで、環境の観点からも良好な点が多いです。

案件例

小規模廃水

小規模の廃水が発生する場合、水処理設備が無い場合が多く、設備費を掛けることも難しいです。アクリンは、簡易・安全・安価に処理を行うことが出来ます。

- (1) アクリン使用量: 少
水処理設備が無い為、廃水をドラム缶に収集して、処理を行っている場合。
- (2) アクリン使用量: 中
タンクに廃水を貯めて、副産物処理・自然沈降処理などを行っている場合。
- (3) アクリン使用量: 多
処理システム、タンク+攪拌機などを提案して、全量をアクリンで処理を行う。



1. 水質の基準をオーバーする場合がある
2. ドラム缶に移し替える手間や全量の処理費が必要

1. 簡易な設備で水処理が可能で水質も向上。
2. 凝集物のみ副産物処理。全量の1/10以下

案件例

大規模廃水

大規模の廃水が発生する会社では、高い可能性で水処理設備が完備されています。アクリンは現状の水処理設備で処理が難しい廃水の処理が得意です。

- (1) アクリン使用量: 少
処理システム、タンク+攪拌機などを提案して、全量をアクリンで処理を行う。
- (2) アクリン使用量: 中
現状の設備で処理不可能な水を別のラインにて簡易的に処理。
- (3) アクリン使用量: 多
コンプライアンスに沿って廃水処理を行う必要がある。
(コストを掛けてでも処理を行わなければならない)



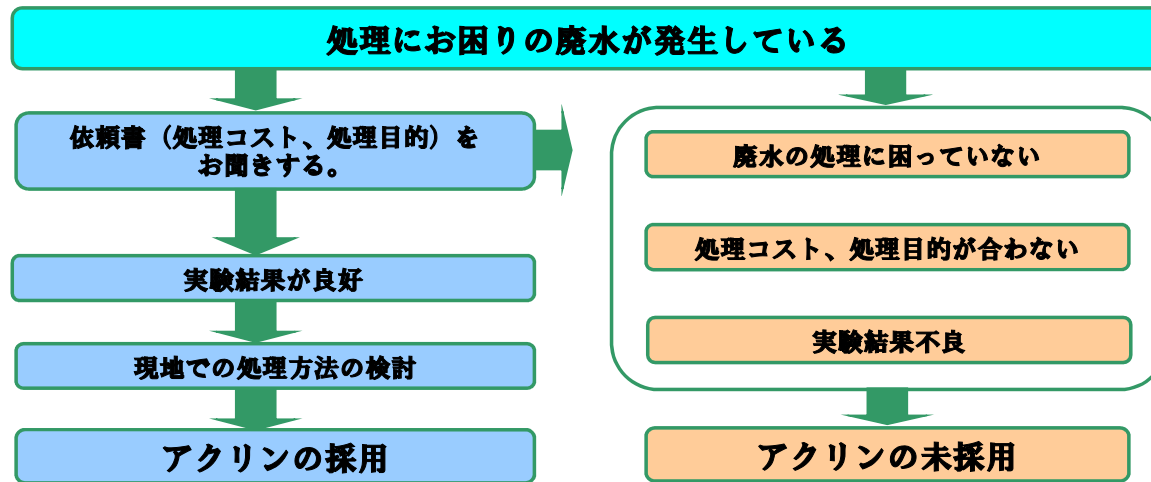
案件例

まとめ

アクリンは、簡単に処理出来る利点を活かして、会社の規模・廃水の規模に係わらず少量の廃水を得意としています。
PACで処理が難しい廃水・設備費の問題などで凝集設備を導入出来ないなど、この様なお客様にむいています。

- (1) 副産物処理を行っている廃水
- (2) 少量の廃水であり、廃水処理設備費の負担などが出来ない
- (3) 作業性を向上させたい(苛性ソーダ・硫酸などの劇物の使用を控えることが可能)

アクリンを使用するにあたり



**アクリンは新しい分野の凝集剤です。
あらゆる分野の濁水进行处理してくれます。
未経験の貴方でも！！**

